筆者が茲に発表した新種 *Stereocaulon curtatoides* と称するものは屋久島の高所花の江河附近に多産し花崗岩上に着生する。その含有成分はアトラノリン，スチクチン酸（少量のノルスチクチン酸を含む）の外に冷エーテル可溶の脂肪系（?）の酸がある。この物質の G.E. から再結晶して現はす結晶の集合と クロマトグラムの Rf 価から見て *St. commixtum* や *St. curtatum* 中に含有されるものと同一であることが判明した。

□倉田 悟解説：**樹の花**，1,2（19×12）各巻カラープレート 100，6 月 7月，1969，山と溪谷社，各巻 480 円。この本は 29 名の撮影にかゝる写真からなり，それに倉田氏が解説をしている。解説は植物学的のものに加えて，随想，民俗，方言などをおり込んであるので，きれいな写真で目をたのしませると同時に読物としての役をも果している。写真の発色もよく，野山を歩く人たちの欲望をみたすことであろう。また，写真にはいずれも使用カメラその他が略記されているので撮影技術の参考にもなる。欲を申せば近縁のものをならべてある場合，相互の拡大率を統一した方がよかったように思う。（久内清孝）

□関根雄次：**日本産蘚類図説** 364 ページ 誠文堂新光社 1969 定価 2,000 円

服部新佐氏の序文によれば，著者の関根雄次氏は植物学とは無縁の経済畑を歩まれた方で，蘚苔類の蒐集を全くの趣味としておられるという。しかし，最近の我が国の蘚苔学者がなし得なかった本格的な蘚類図鑑が，専門家でないこうした著者によって完成されたことに，心からの拍手を送りたい。

本書では 1 頁（1 図版）に 1 種（または 1 変種）ずつ掲載され，各頁の上段には写真と図が，下段には説明がある。写真は全形を収めているが，種類によっては dung ball の写真という感じを免れない。図は忠実すぎるほど忠実に描かれているし，極上質紙に印刷されているのですばらしく，専門家も逆に教えられるところがあるように思える。服部新佐，岩月善之助，井上浩の各氏の助言も与かって，各種の説明は学問的水準の高いものとなっている。しかし，文章がやゝ硬く，20〜30 年前の植物図鑑を読んでいる錯覚におそわれるのが難点である。巻頭を飾る 2 枚の原色写真はすばらしく，また巻末の文献もたんねんに集められていて，初心者へのよい指針となるであろう。値段はちょっと高いが，それ相応に味わいのある図鑑である。何れにしても，在野の無名の士によって本書が完成されたことに深く敬意を表わしたい。と同時に○○ゴケの専門家が多くとも，コケ全般について造詣の深い専門家というものは今後とも少なくなるのではなかろうかと考えさせられた。（黒川 道）